

く る わ つ う し ん

QURUWA通信



通り特集！

QURUWA の北側に位置する、
康生・連尺・二七市の3本の通りと
そこでの取り組みをご紹介します！

あなたは、まちとどう過ごす？

康生・連尺・二七市の「3本の通り」とそこでの取り組みをご紹介します！

まちにどんな“通り”があると歩きたくなる？

現在、まちの“通り”は、ただ車や人が通り過ぎるだけのところになっていますが、人が集まって、そこでコミュニケーションが生まれる場所になったら素敵だと思います

せんか？
QURUWAの中には、そんな豊かな風景が日常になる可能性の高い通りが3本あります。

QURUWAの中の「3本の通り」

QURUWA 戦略(※)の中では、年間140万人以上が利用する集客拠点「図書館交流プラザ・りぶら」と、来年度にリニューアルされる「籠田公園」をつなげて回遊性を高める動線として「3本の通り」(康生通り、連尺通り、二七市通り)が位置付けられています。定期的に朝市が行われ、その際には歩行者天国化する二七市通りに対して、残る康生通りと連尺通

り、それぞれの個性を生かした魅力を高める道路の在り方や活用方法を検証する社会実験を実施しました。

※ QURUWA 戦略：乙川リバーフロント地区内の豊富な公共空間を活用した公民連携プロジェクトを実施することにより、QURUWAの回遊を実現させ、波及効果として、まちの活性化(暮らしの質の向上・エリアの価値向上)を図る戦略



「3本の通り」ってどんなところ？



3本の通りの中では道路幅が一番広く、車やバスなどでこのまちにアクセスする玄関口として捉えることができます。外から来る人を最初にお迎えする場所として、どのような商店街にしていけるのかという議論がなされてきました。みんなの力を合わせて楽しい道路にしていけることで、沿道の不動産の価値を上げていくことも求められています。

「グッとくるわ社会実験」 P3.4へ!



旧東海道が通っていたため、古くから続く呉服屋さんや薬局など老舗の店舗が立ち並ぶなか、空き店舗をリノベーションした喫茶室などもでき始め、新旧のビジネスが引き立てあう岡崎ならではのコンテンツが集まる通りとしての特性が見出されています。大きすぎず、小さすぎないちょうどいいスケール感の通りのあり方や、そこで暮らしやすくなる通りの使い方が求められています。

「生活社会実験 連尺通り編」 P5.6へ!



3本の通りの中ではもっとも商店が少なく、住宅や駐車場が多い通りです。車や自転車などの交通量もさほど多くなく、歩道も広くてゆったりしているので、近隣に暮らす人々の生活道路として、安全で快適な通りという機能を十分に果たさないといけません。一方で、2と7のつく日には歩行者天国になって、朝市で賑わい、すでに通りが活用されています。

「2と7のつく日の朝市」 P7へ!

社会実験とは？

例えば商店街で買い物をしている途中に、ちょっと荷物を置いて休憩したくなったり。天気の良い日に、外でベンチに座ってコーヒーを飲みたくなったり。もしくは、道行く人を眺めながらテラス席でビールを楽しみたいなあとか。そんな風に思ったことはありませんか？
でも、普段歩いている道路は公共空間(=みんなのもの)。そのため、例えば道端にベンチを設置したいと思ったら、まず

公共空間を管理する行政の許可が必要となります。
そんな行政のルールを一時的に緩和し、歩道や軒下、駐車場などの空間を活用しながら、理想とする未来の日常の実現に向けて、試験的に実施するのが社会実験です。
2018年は、康生通りと連尺通りでそれぞれの通りのあり方を模索する社会実験を行いました。



歩くのが楽しい康生通りを目指して。 —グッとくるわ社会実験

DATA

2018年
11月12日
～11月18日
康生通り

2018年11月に、康生通りにて歩道や軒下、駐車場などの空間を活用する社会実験を行いました。その名も、「グッとくるわ社会実験」。

衣料品店やはんこ屋、時計屋などの専門店が立ち並ぶ康生通りは、かつては歩くと肩が触れ合うほどの人で溢れていました。現在の康生通りについて「専門店が多く、お客さんは目的のものを買いに来て、帰るだけになってしまっています。これからもっと、そぞろ歩きが楽しい活気のある通りにしていきたいんです」と康生エリアのまちづくりに取り組む、株式会社まちづくり岡崎の杉浦さんは話します。

そんな康生通りで今回行われた社会実験では、

1)「まち歩きが楽しいまち」にむけた歩道空間（軒下）の活用

2)「魅力ある来やすいまち」になるよう、駐車場のありべき姿を模索

という2点を検証項目として掲げ、道

路空間の利用における規制を一時的に緩和。約300mある康生通りの歩道では、人が歩けるスペースは確保した上で、歩道の一部に商品を並べたり、「まちの縁側」としてベンチを設置した休憩スペースを設けたりなどの取り組みを行い、魅力的なまちのあり方を探りました。

期間中の11月17日と18日は、「グッとくるわフェスタ」と題し、歩道や空き地にハンドメイドの雑貨店やキッチンカー、ワークショップなどの店舗が総勢30店舗ほど出店！多くの人々が足を運び、買い物や食事を楽しんでいました。そこには、通りで食べたり飲んだり、ちょっと腰を下ろして休んだりしながら、いつもよりゆっくり滞在し、にぎやかな康生通りを眺めている人々の姿がありました。

今回の社会実験は、1度きりのイベントではなく、このまちをどのように魅力

的に進化させていけるかを考えるためのものです。今後は来場者や出店者の感想、アンケートなどのデータを元に、これからの通りの使い方と未来のあり方をより具体的に検討していきます。

「普段は許可されていませんが、例えば軒先に看板や商品を並べたら、通った人が足を止めて商品を手に取りやすく、お店の人とのコミュニケーションのきっかけになりました。そんな工夫の積み重ねが、“歩くのが楽しいまち”に繋がるかもしれません」と杉浦さん。歩道や駐車場を今より自由に活用することで、人がもっと楽しく歩けるまちになる—康生通りでは、そんな未来が見えました。



「グッとくるわ社会実験」を企画運営した、株式会社まちづくり岡崎の松井さん（右）と杉浦さん（左）

Before



After



通りに人がいる風景がまちの魅力を高めます！



飲食店はどこも大にぎわい！



休憩スペースでは、近隣店で買ったごはんやおやつを食べながら、何気ないコミュニケーションが生まれていました。



歩道スペースを確保したうえで、普段は利用できない歩道に商品を陳列することで、通りがパッと華やぎます。



「通り」に出てみたら、まちと暮らしはどう変わる？ —生活社会実験 連尺通り編

DATA

📅 2018 年
10 月 26 日
～ 11 月 18 日

📍 連尺通り

連尺通りの歩道が今よりも自由に使えるようになったら、まちはどのように変わるでしょうか。とりわけ「暮らしは豊かになるのか？」という生活の変化に焦点をあてて、効果を検証する生活社会実験を行いました。

「この生活社会実験は、沿道の人たちと少しずつ試しながら検証を行うために、実施期間を長めに設定したんです。」と話すのは、この取り組みをするNPO法人岡崎まち育てセンター・りたの下里さん。最初はベンチを置いても普段と変わらずほとんど人が通りに居ない状態が続いたのですが、沿道の人と話し合い、道行く人を観察しながら、ベンチを動かしたり、机を組み合わせたりなどを試していったそうです。

だんだんと沿道の人々が看板を置いたり、椅子を動かして自分で過ごしてみたり、知り合いを呼んでご飯を食べたりすることが増え、連尺通りににぎわいが生まれてくるとともに、通り

を積極的に使う様子が見られるようになりました。

そんな風にいつも通りに人が居るようになると、休日に地区外から訪れた人も、近くの飲食店で買ったコーヒーやごはんをベンチで飲んだり食べたり、通りでのんびりとくつろいで行くことが増えていきました。感想を聞いてみると「屋外って、開放的でのんびりした気分になっていい！」という声も。

連尺通りはただ通り過ぎる場所から生活の一部を過ごす場所になり、人々の交流も日常的に生まれ、通りを歩くだけで楽しい……そんな空間になっていました。こんな風景が日常になったら、私たちの暮らしはより楽しく豊かになるのではないのでしょうか。



「生活社会実験 連尺通り編」を企画運営した、NPO法人岡崎まち育てセンター・りたの下里さん



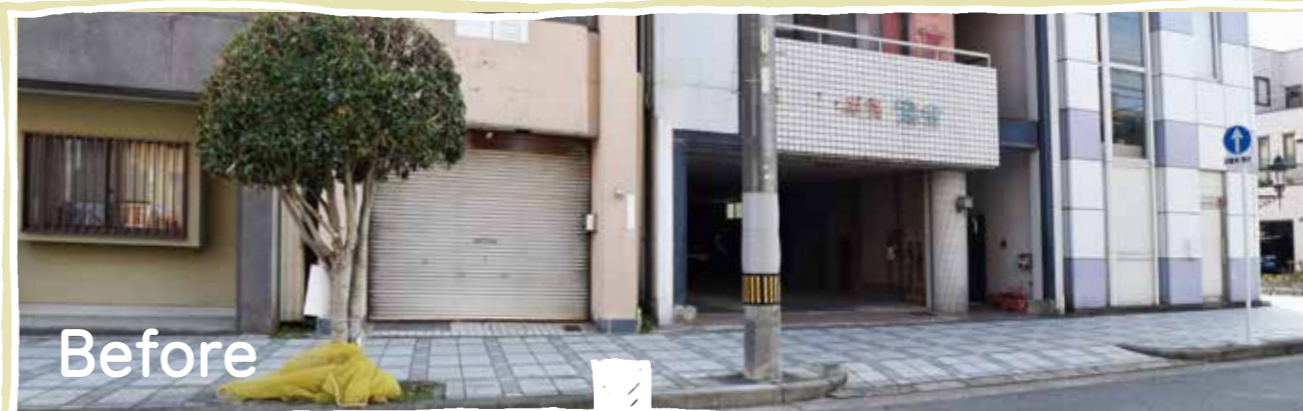
平日の夕方こんな人が！



通りの中でも場所に合わせて家具を設置



犬の散歩途中、信号待ちで腰掛け、休憩



Before



After

約1か月でこんなたくさんのシーンが生まれました！-----



帰り道に立ち寄って遊んでいく小学生



通りでばったり会って、何気なく話す風景も



偶然通りかかった人との出会いも通りならではの



人工芝を敷いてみたら、雰囲気が一変！



下校中の小学生との出会いも通りにいるからこそ



机と椅子さえあれば、打ち合わせだってできます



積み木を持ち出したら、小さい子供も通りで夢中



通りに本があったら立ち止まって読んでいく人も



みんなでお昼ご飯を食べることもできました

二七市通り



DATA

毎月2と7のつく日

二七市通り

2と7のつく日は朝市へ！

3本の通りの一番北側の通りでは、定期的に「二七市」が開かれます。野菜や果物、お茶、花、靴など、あらゆるものが売られています。中には、試飲や試食をさせてくれるお店もあります。お店の人と話しながらじっくり選べるのが魅力です。その日によって出店内容は異なりますが、その時々のお会いがあるのも楽しみの1つです。

二七市をやっている最中は歩行者天国になるので、子どもから高齢者まで安全に買い物できます。

二七市は60年以上の歴史を持ち、長く多くの人に親しまれていることがわかります。



水色、白、赤、この組み合わせが二七市のテーマカラー！これが目印！



食べ物以外も。お花も苗から切り花まで。見て回るだけでも楽しい市場です。



1つのお店に並ぶ品もたくさん！そんな品揃え豊富なお店がいくつもあります。



飲食できるお店も！市場の中でお客さん同士の交流が生まれています。



名鉄東岡崎駅、桜城橋、籠田公園、りふら、岡崎城など公共空間の各拠点を結ぶ主要回遊動線（主要なまちめぐりルート）。かつての岡崎城跡の「総曲輪（そうぐるわ）」に重なるところがあること、動線が「Q」の字に見えることから「QURUWA（くるわ）」と表記しています。QURUWAの中で様々なまちづくりを展開し、まちの活性化や暮らしの向上を図ります。

